

「外国人観光客に対する東京都の防災対策」

大田 晴花

要旨

本研究では、災害時、外国人観光客に対して東京都がどのような「観光危機管理」を行うのかを検討する。2020年にオリンピック・パラリンピックが開催され、訪日外国人がさらに増加すると予想される東京では、「観光危機管理」に力を入れて取り組む必要がある。近年災害発災毎に外国人観光客への対応不足が指摘されるが、安全・安心な旅行をしてもらうための防災対策を考えることで、住民や観光事業者が再び防災への意識を高めるきっかけになるのではないだろうか。そこで、過去の災害時に外国人観光客への対応で課題に挙げたことを踏まえ、他道府県の取り組みと比較して東京都の観光危機管理体制が十分であるかを検討した。その結果、訪日外国人が災害時に最も必要としていることは情報であり、本研究で多言語による情報伝達の重要性が明らかとなった。東京都は災害時に上手く住民と外国人観光客が共存するためにも、災害に関する知識のレベルを区別し、それぞれに応じた多言語対応を今後一層強化すべきである。